

Dokkyo Picks

獨協と未来の架け橋となる広報誌

2025 WINTER

Vol.487

1月号

これまでと、これからの60年

グローバルな価値観を身につけ、
成熟した社会を支える人へ

獨協大学学長×学生

創立60周年記念イベントレポート

実行委員に聞く！

第60回雄飛祭を記念して

卒業生に聞く！

未来への羅針盤

CAMPUS NEWS

RECOMMEND BOOKS

ぶらりらいぶらり／DOKKYO SDGs





これまでと、
これからの60年

グローバルな価値観を
身につけ、

成熟した社会を

支える人へ



獨協大学学長
前沢 浩子

外国語教育や国際交流を基盤に、いつの時代も、社会に求められる人材の育成に力を入れてきた獨協大学。社会が大きく変わる中で、大学で何を学び、どう成長するか。創立60周年を機に、これまでの歩みとこれからの展望について、前沢学長と在学生に語っていただきました。

成長から成熟へ。 時代とともに変わる大学

前沢 皆さんは、獨協大学としてスタートを切った60年前の大学周辺の風景を見たことがありますか？その頃、このあたりにはずっと田んぼが広がっていて、その中に大学と団地が建っていました。時代は高度経済成長期の真っただ中、団地には日本経済を支える人たちの暮らしがあり、大学では、これからの経済成長を支える人材を育成していました。その頃、さらに工業団地や産業道路もでき、住宅が広がって、街の様子が大きく変わっていったのです。

60年前は、今とはまったく違う風景だったんですね。

前沢 創立60周年という区切りで考えると、これまでは「成長」の時代、これからは「成熟」の時代だと考えています。お二人は、成熟した社会というものをどのようにイメージしますか。

社会全体が少し丸くなっていくというイメージがあります。成長を経験した人が次のステージで社会貢献に携わること

受け継いでいく伝統と 時代に合わせたスピーディーで 大胆な変化

前沢 今後の獨協大学は、これまでに築いてきたことを守る部分と、大きく変化させる部分の両面があります。本学の良さは、都心から少し離れた落ち着いた環境の中で、地に足をつけて学ぶ実直な学生が多いこと、全学部が一つのキャンパスにあり、学部学科を越えた交流が生まれやすいこと、地域との連携、教職員も含めたアットホームな雰囲気などたくさんあります。このような良さはこれからも残していきたい。一方で、急速なテクノロジーの発展に伴ったデータサイエンスの知識・スキルの学修、インバウンドの増加に対応したツーリズム関連のキャリア教育など、スピーディーかつ大胆に教育プログラムを変化させるべき面もあります。

学生の「やりたい」「頑張りたい」を全力で応援する環境が整っている大学だと思っています。私は、就職活動でキャリアセンターから手厚いサポートを受け、希望の進路が実現しました。これからも、そういう部分は残ってほしいです。

4年間の大学生活を通じて、時代の変化に対応しようとする先生方の意識の高さを感じました。A1時代の外国語教育や、新しくスタートした情報科学教育プログラムなど、これからも進化が期待できると思います。前沢 お二人が大学での学びを楽しみ、成長を実感できた話してくれたことがとてもうれしいです。さん さん さんのような学生を一人でも多く、育てていきたいです。



成熟した社会活動の一つではないでしょうか。

前沢 そうですね。競争し合うことで発展していった成長の時代に対し、人と人が支え合うような社会をつくるのが成熟の時代ではないかと私は考えています。また、さんが「丸くなっていく」と表現してくれましたが、ゆとりを持って生活や人生を楽しめる、これからはそんな人たちが増えてくるでしょう。さらに、これまでの経済成長の裏側で壊されてしまった自然環境を回復させ、人々の生活と自然の調和をはかつていくことも大切になってきます。

※草加松原団地・1962年の入居開始当時、東洋最大規模といわれたマンモス団地。



多様な学びを通じ、 グローバルで共有できる 価値観を身につける

私たちは今春、社会人になります。これまでの卒業生の皆さんはどのような活躍をされていますか。

前沢 「語学の獨協」として、海外でも活躍できる語学堪能な卒業生を多く輩出してきました。また、学校の先生や公務員として、地域社会や経済の活性化を担う中核人材になって活躍する人も数多くいます。そして近年、私たちが期待しているのは、語学だけでなく、グローバルで共有できる価値観、例えば、環境問題や人権問題など世界の課題に対し、主体的に取り組める人材を送り出すこと。お二人は、大学でどのような成長を得られましたか。

私が所属する交流文化学科のカリキュラムには、英語プラス1言語の修得に向けたものと、ツーリズム・トランスナショナル文化、グローバル社会の多彩な専門科目で構成されるものがあり、授業を通じて、さまざまな社会問題に多角的にアプローチする姿勢が身に



つきました。視野や興味の幅が大きく広がったと感じています。

私は、憲法ゼミの活動で、入管法改正案の検討を通じて在日外国人の人権をどう守るかを考えたことが印象に残っています。関連する法律の知識に加え、社会、政治、経済などの動向を新聞やニュースでも勉強しました。異なる文化や背景を持つ人と共生するには、対話による相互理解が大切であることを実感しました。大学のある草加市にも外国籍住民が多いので、身近な問題としてとらえることができました。

さんがお話されたように、異文化に関する知識を持つことが重要です。歴史や経済、宗教的な価値観、食文化など、知れば知るほど、相手に共感しやすくなりますよね。

はい。自分の立場だけで物事をとらえるのではなく、多様な文化的背景を持つ他者の視点を取り入れていくことが大切だと思います。卒業後、航空会社の客室乗務員として働く予定ですが、「当たり前はない」という意識を常に持ち、世界の空で活躍したいです。

対談のこぼれ話は、大学公式noteで！

最初は緊張の面持ちだったさんとさんですが、自然体な前沢学長との対話で、すぐに笑顔が見られるように。大学公式noteでは、お二人の課外活動や就職活動の話なども掲載しています。

本誌に載せきれなかった
記事をnoteに掲載しています！
ぜひご覧ください！

note





創立60周年記念 イベントレポート

獨協大学は、2024年10月22日に創立60周年を迎えました。獨協大学は、創立以来、多くの関係者(学生、教職員、卒業生、父母、地域住民、自治体、企業等)に支えられながら発展を遂げてまいりました。創立60周年記念事業では、活動コンセプトを“つなぐ”として多くの活動を行ってまいりました。



獨協大学父母の会 寄贈ピアノの除幕式を開催

10月22日、雄飛ホールにおいて本学創立60周年を記念して獨協大学父母の会から寄贈されたピアノの除幕式が行われた。ピアノは本学卒業生で美術家のむろまいこ氏のイラストをラッピングしたもので、本学の緑豊かなキャンパスが全面に描かれている。曾根貞治獨協大学父母の会代表幹事は「学生の皆さんにはこのピアノを音楽と人をつなぎ、人と人をつなぐ架け橋として、末永く活用してほしい」と挨拶。続いて学生団体による校歌斉唱の後、スペシャルゲストとしてポップスピアニストのハラミちゃんが全8曲を演奏し観衆を魅了。ハラミちゃんは学生に向けて「大学生活や日々の生活の中で無駄なことは何ひとつありません。自分の得た知識や経験が実を結ぶのはタイミングの問題。一秒一秒を大切に青春してほしい」とエールを送った。イベント終了後、ピアノは雄飛ホール入口に設置され、ストリートピアノとして運用をスタートした。



創立60周年記念のスペシャルメニュー 「ザクザクからあげグリーンカレー」を販売

4月12日より、本学創立60周年記念のスペシャルメニューとして開発した、「ザクザクからあげグリーンカレー」の販売を開始。地元草加の特産品「草加せんべい」と、草加市や隣町の八潮市で全国トップクラスの生産量を誇る「小松菜」を使用したスペシャルメニューで、草加せんべいは唐揚げの衣に、小松菜はカレーのルーに使用。この企画は、大学が学食メニューを通じて地元の特産品を盛り上げると共に、これをPRすることで学生が地元の特産品を知るきっかけとなることを目的に企画したもの。



冬物の新作が登場! 獨協大学オリジナルアパレル販売中

創立60周年記念企画として開発した獨協大学オリジナルアパレルをECサイト「【DOKKYO】MARKET」にて販売中です。この企画は、還暦にあたる60年を機に本学のイメージを刷新するとともに、関係者の愛校心の育成を目的とするもので、商品開発は学生と教職員のプロジェクトにより実施したものです。この度新ロゴをあしらったトレーナー、パーカー、ニット、ウインドブレーカーなど、冬シーズンで普段使いができる新アイテムが追加されました。皆さんもお洒落な獨協アパレルを身に着けて、寒い冬を乗り切ろう!



<https://collegemarket.jp/collections/dokkyo>



「DOKKYODイツフェス」を開催

8月3日、4日に「日本とドイツをつなぐ」をキーワードに、ドイツ文化の多様性と豊かさを広く紹介し、学生や地域社会にドイツとの深いつながりを感じてもらおうことを目的とし、「五感で楽しむドイツ文化」「歴史／文化トークセッション」「ドイツ語ワークショップ」「留学・就職フェア」の4つのセッションからさまざまなイベントが開催された。



創立60周年記念講演会「現代に生きる 天野貞祐の教育哲学」を開催

11月15日、A-207教室において、貝塚茂樹武蔵野大学教授を講師にお迎えし、本学創設者であり初代学長である天野貞祐先生に関する講演会を開催。戦前から戦後の激動の時代に翻弄され、挫折しながらも教育改革にまい進した天野先生の教育哲学を再認識する機会となった。

日程	内容
2023年10月21日	草加市シルバー人材センター主催「シルバートロギング」に協力
2023年10月26日	獨協大学同窓会主催「山梨県の会」に協力
2023年10月27日	松原団地自治会主催「草加松原団地自治体設立60周年記念式典」に協力
2023年11月9日	各棟エントランスに60周年記念マークのパネル設置
2023年11月17日～23日	経済学部高安ゼミ生による皮革製品の展示・販売会を草加マルイで開催
2023年12月19日	ヤクルトスワローズ並木秀尊選手トークイベント「プロ野球で働くということ」を開催
2023年12月21日	「「READ THE CULTURE」J-WAVEナビゲーターと考えるNEXT GENERATIONに必要な世界をとらえる力」と題してJ-WAVEラジオ番組「STEP ONE」の出張講義を開催
2024年1月9日	学生センターに60周年記念マークの垂れ幕を設置
2024年4月12日	学食で創立60周年スペシャルメニュー「ザクザクからあげグリーンカレー」を販売
2024年4月16日・5月16日・6月26日	学食で60周年スペシャルメニュー「獨協ランチ定食」を販売
2024年4月26日	獨協大学発オリジナルアパレルECサイト「【DOKKYO】MARKET」を開設
2024年5月7日	広報誌「獨協大学ニュース」をリニューアル
2024年8月3日～4日	「DOKKYODイツフェス」を開催
2024年10月1日	B1リーグ越谷アルファーズオフィシャルパートナーとして参画
2024年10月15日～2025年1月31日	「獨協大生に伝えたい草加松原魅力MAP」を作成
2024年10月22日	創立60周年記念「父母の会寄贈ピアノ披露イベント」を開催
2024年10月22日・24日	創立60周年記念「世界を旅する学食フェア」を開催
2024年11月2日	「ホームカミングデー」を開催
2024年11月5日～7日	「図書館総合展2024」ポスター出展
2024年11月15日	獨協大学創立60周年記念講演会「現代に生きる天野貞祐の教育哲学-戦後教育と獨協大学-」を開催
2024年11月15日	獨協大学創立60周年記念「ドイツの文化を体験してみよう」を開催
2025年12月8日	「図書館と県民のついで埼玉」ポスター出展

実行委員に聞く!

第60回雄飛祭を記念して

昨年11月に実施された、雄飛祭実行委員会による「雄飛祭の歴史」企画。雄飛祭の60年間の資料や写真で振り返り、これまでとこれからをつなぐパネル展示となりました。企画の立案から実行まで携わった実行委員のみなさんに、お話を聞きました。



「雄飛祭の歴史」企画の経緯を教えてください。

獨協大学60周年、雄飛祭60回目という節目のタイミングにふさわしい企画にしたかったので、歴史を写真や資料で振り返るパネル展示を考えました。また、雄飛祭には近隣住民の方も足を運ばれるので、多くの方に喜んでもらえるのではという期待がありました。

そうですね、学生や卒業生の方に懐かしさを感じてもらいたいという思いを込め、構想から完成まで約1年かかりました。

苦労や工夫したところ、やりがいを感じた部分について教えてください。

展示物を探すために60年分すべての資料に目を通したのですが、昔の学生が考えた面白い企画や熱いコメントがたくさんあり、雄飛祭の原点にふれられたのがよかったです。

タバコに火を点ける速さを競う企画など、今ならできない尖ったものも多く、時代を感じました。また、雄飛祭と同日にホームカミングデーも実施されたので、その参加者である卒業生の年代

に合わせた内容を多くするといった工夫をしました。

苦労したのは、外部団体の方々との打ち合わせです。資料を作成し説明するという経験は今後につながると思います。また、展示物を事前に学内で確認していた際、さまざまな考えや意見を聞くことができ、多様な視点を取り入れて完成につながりました。

雄飛祭では多くの方がパネル展示に見入っていました。今回の取り組みの感想を教えてください。

60年を振り返るのは本当に面白かったです。昔の学生の率直な意見や、今の学生と変わらな部分を知り、さまざまな発見がありました。

私も、過去にどのようなテーマでイベントを行っていたかなど、これまで知らなかったことを振り返るよい機会だったと思います。

今回の企画でわかったのは、雄飛祭が60年間かけて実行委員の方々につながってきたものであること。これまでの先輩方への感謝の気持ちを伝えたいです。



雄飛祭の様子をもっと深掘り!

大学公式noteでは、記念すべき60回目の雄飛祭の準備段階からの苦労話や実行委員をやってみてのやりがいなど実行委員3名の溢れる想いを掲載しています。

本誌に載せきれなかった
記事をnoteに掲載しています!
ぜひご覧ください!

note



獨協での学びは、

グローバルに活躍するための財産になる



Profile

サッシャ
ドイツ・フランクフルト出身。小学校4年生の時に日本に移住。本学在学中に、音楽専門チャンネルVIBEのVJとしてデビュー。現在、J-WAVE「STEP ONE」ナビゲーター、日本テレビ系「金曜ロードショー」ナビゲーター、スポーツチャンネルのJSPORTS、DAZNの実況などを担当。そのほかナレーション、MCなど幅広く活躍している。

サッシャさん

ドイツ語学科 1999年卒業

創立60周年おめでとうございます！私が入学したのが1995年で、35周年を迎える1999年に卒業したことになります。とても濃い4年間を過ごさせていただきました。現在はその時より更に施設が充実し、理念はそのままに、より学生にとって素晴らしい大学に進化したと感じています！卒業生であることを誇りに思える大学です！獨協大学はギュッと1ヶ所に揃ったキャンパスに沢山の施設と可能性が詰まった大学です！獨協で学んだ4年間、過ごした4年間は出会った人々も含め、その後の人生の基礎になったと年々感じるようになっていきます。世界に羽ばたく獨協生が、将来あなたの世界に広がる財産となるはずですよ！これからの時代は、獨協生の強みが更に活かされる時代になること間違いなし！そして、いつかあなたと一緒できる日を楽しみにしています！！



60周年記念イベント
「“READ THE CULTURE” J-WAVE
ナビゲーターと考えるNEXT GENERATION
に必要な世界をとらえる力」の講演でご協力
いただきました

2023年12月21日、J-WAVEラジオ番組「STEP ONE」の出張講義を本学にて開催しました。同番組でナビゲーターを務めるサッシャ氏（ドイツ語学科卒）とノイハウス萌菜氏にお越しいただき、国際的に活躍するために求められることなど、これから世の中ですべて活躍したいという夢をもつ学生に向けて語っていただきました。また、番組内でのコーナーを教室で再現いただき、番組を届ける上で意識することなどをお話いただきました。

その他、さまざまな卒業生から
メッセージが寄せられました！

自分で選んで来た大学。
勉強、部活（サークル）、友達との付き合い。
勉強したすべてのことは
これから先の自分を助けてくれます。
大いに楽しんでください！（1996年卒）

留学、ボランティア、きちんと授業に出る…。
社会に出て再度学び直すには
時間とお金も相当頑張らないと捻出できません。
今学べる環境を十二分に活用してください。（1996年卒）

思いの外、獨協卒業生は社会の各方面で活躍していますよ。
自信をもって勉強も、海外での体験など、
充実した4年間を過ごしてください！（1996年卒）

振り返ってみると、大学生活はあっという間でした。
今のうちに目一杯勉強して、友達と交流して、
大学生活を楽しんでください。（1998年卒）

語学はグローバル人材として必要不可欠ですが、
語学を使って何をするかはもっと大切です。
語学に強い文系総合大学という強みを活かせる環境で
全力で勉強して、学生生活も思う存分楽しんでください！！（1999年卒）

今しかできないことをぜひ。
やりたいことはやり通してね。（2000年卒）

卒業後、一般企業で働いていますが、
外国語を使う機会がない場合でも他言語を学ぶ事の大切さを
改めて実感しています。言語には、相手国の歴史や文化的背景が
色濃く反映されており、多角的な視点で物を見る教材として最適です。
獨協大学には語学に没頭できる環境が整っていますので、
ぜひ打ち込んでみてください。必ず後々の人生に役立ちます。（2013年卒）

自分の在学時に情報科学教育プログラムがあったら
ぜひ受けたかったです。
今やどの業界でもIT技術は欠かせないし、
語学×ITができれば最強！
社会に出たら引手数多になれますよ～おすすめ！（2013年卒）

大切な仲間にも恵まれて、

熱中できることに

出会えた4年間



Profile

並木秀尊（なみき・ひでたか）
1999年3月生。2021年3月経済学科卒。在学中は硬式野球部に所属し、走力を武器にチームの主力として首都大学野球2部リーグベストナインに3度選出。公式戦24盗塁を記録。2020年10月プロ野球ドラフト会議にて東京ヤクルトスワローズから5位で指名された本学初のプロ野球選手。170cm、72kg。右投げ右打ち。

並木秀尊さん 経済学科 2021年卒業

60周年おめでとうございます。獨協大学は自宅から近く、小学生のころから親近感がありました。在学中は仲間にも恵まれ、充実した学生生活を送ることができました。獨協は、国際交流が盛んというイメージがあるように、当時、硬式野球部にも海外で生活していた部員がいて、海外を近くに感じました。これからも獨協大学には、学生が熱中できることを見つたり、新しいことに挑戦できる場であってほしいです。在学生のみなさん、今後キツイ時はあると思いますが、楽しいこともたくさんありますので、自分を信じて歩いてください。



60周年記念イベント ヤクルトスワローズ並木秀尊選手トークイベント
「プロ野球で働くということ」でご協力いただきました

2023年12月19日（火）、天野貞祐記念館3階大講堂で、卒業生トークイベント「プロ野球界で働くということ」が開催された。本学在学時は硬式野球部に所属していた並木秀尊氏（東京ヤクルトスワローズ外野手・経済学科卒）、前田悠也氏（読売ジャイアンツ通訳・英語学科卒）を招き、「好き」を仕事にすること、プロ野球の世界で働くこと、今後の抱負などを語っていただいた。

世界は広い！

むろまいこさん

英語学科 1996年卒業

獨協での経験を糧に羽ばたいてください

60周年、おめでとうございます。
母校の節目に関わらせていただき、大変光栄です。ピアノデザインにあたり、今の明るいキャンパスの空気に触れ、活気ある自由な校風は変わらず、時の流れを感じながら絵を描きました。
人生には想像を超える可能性がたくさんあると思います。私も在学中は自分が作家活動をするようになるとは思っていませんでしたが、振り返ってみれば、学生時代のさまざまな経験が現在に繋がっているのがわかります。学生の皆さんは今を楽しんで色々吸収し、それを糧にそれぞれの未来へ繋げていって欲しいと思います。世界は広いです。思い切り羽ばたいてください。



創立60周年記念 獨協大学父母の会
寄贈ピアノのデザインにご協力
いただきました



Profile

むろまいこ
'96年 獨協大学外国語学部英語学科卒業。'97年～約4年間メキシコに滞在、メキシコ国立芸術大学ラ・エスメラルダなどで美術を学ぶ。帰国後KOBATAKE工房にて彫刻を学ぶ。個展を中心に、絵本「おはようどり」（福音館書店）やアニメーションへの原画提供などさまざまな作家活動を展開。

在學生 × 卒業生

羅針盤
Compass to the future
未来への
Vol.38

特別編

60周年記念イベントにご協力いただいた卒業生のみなさまから、在学生へのメッセージをいただきました。

卒業生に聞く！

2024年度「子ども大学そうか」 第4回授業開催



10月12日、西棟で「子ども大学そうか」の4回目の授業が行われ、草加市内の小・学生48名が参加した。

今回の授業は、総合政策学科 高橋 均教授が「会社を作ってみよう!」をテーマに行った。高橋ゼミの学生6名も企画及びサポート役として参加した。

株式会社の仕組みについて学んだ後、各グループ単位で事業内容・会社名・役職などを決めて会社を設立した。テーマパークや動画配信などの会社を考え、価格設定や広報の仕方、海外展開など運営方法についてグループで話し合った。また、それぞれ「社長」や「営業部長」等の役職も体験した。

最後にグループで考えた会社について、全員が前に出て発表した。他のグループのメンバーは熱心に耳を傾けていた。



第1回全国高校生英語 ストーリーテリングコンテストを開催



10月20日、外国語学部主催「第1回全国高校生英語ストーリーテリングコンテスト」を獨協大学西棟W-207教室にて開催した。

今回は応募総数94名のうち、厳しい予選を勝ち抜いた10名が本選に参加し、「Everyone has a story to tell」(誰もが伝えるべき物語がある)のコンセプトのもと、それぞれがオリジナルのストーリーを表情豊かに発表した。審査委員長からは、Storyとは人生経験であり、情報を提示して人々を納得させるSpeech以上に観客との対話を意識することで、より深みのあるStoryを伝えることができるとコメントが述べられた。



審査時間を利用して実施した、一般社団法人英語落語協会による英語落語の様子

第12回経済学部プレゼンテーション・ コンテスト開催報告



11月6日、第12回経済学部プレゼンテーション・コンテストが、天野貞祐記念館大講堂において開催され、応募があった17件のうち書類審査を通過した8グループがプレゼンテーションを行った。厳正な審査の結果、最優秀賞には山森哲雄(済)ゼミ・チームえれべすかの「大学内のエレベーターおよびエスカレーターの問題をナッジで解決」が選出された。本選での各グループのプレゼンテーションは、日頃の活発な調査・研究活動の様子が窺えるものばかりだった。



第8回図書館講演会 「ベル・エポックの女性たち」を開催



11月6日、第8回図書館講演会を開催した。今回は大学創立60周年を記念して一般参加も受け付け、70名が来場した。

講師の阿部明日香准教授(本学外国語学部フランス語学科)は、19世紀末のフランスにおける近代化の動きやブルジョワ文化を背景に、ミュシャやロートレックなどの作品から見えてくるベル・エポック期の女性をめぐるイメージについて解説。良妻賢母が求められた時代にさまざまな分野で才能を開花させ、〈美しい時代〉を生き抜いた女性たちの活躍を紹介した。

講演後は、図書館2階の貴重書展示「ベル・エポック期の作家たち」を来場者に鑑賞いただいた。



長期留学終了者による 留学成果報告会を開催



10月14日～18日、国際交流センター主催で長期留学終了者による留学成果報告会が開催された。留学成果を可視化することで、留学者本人には、次のステップに向けての新たな気づきを得る機会として、また留学を考えている学生には、海外体験について考えるきっかけを提供する場として、本報告会は実施された。

長期留学終了者は、留学終了後の事後研修を通してまとめた留学成果に加え、自身の能力の伸長や課題、今後の学修計画などを発表し、多くの参加者にとって今後の可能性を広げる貴重な機会となった。



フランクフルト大学など2大学と 新たに学術交流協定を締結



本学は、12月12日付でフランクフルト大学(ドイツ)、11月20日付で西江(ソガン)大学国際学部(韓国)との学術交流協定を締結した。

これにより本学のドイツにおける協定校は13校、韓国における協定校は6校となった。



フランクフルト大学



西江(ソガン)大学

ホームカミングデー開催



11月2日、本学キャンパスにおいて、卒業生を対象にしたイベント「ホームカミングデー」を開催し、約430名が参加した。今年度はコロナ禍で開催を見送った2020年度から2023年度対象者を含む10期にわたる卒業生を対象に行った。

天野貞祐記念館大講堂にて行われた第一部歓迎式では、前沢浩子学長より「伝統と改革」をテーマに、獨協大学60年の歩みを振り返るとともに、現在の本学の改革状況の報告があった。続いて、大西純一同窓会長の挨拶の後、フラ愛好会Mehanaと舞踏研究会によるステージが行われた。その後、35周年記念館学生食堂で懇親会が行われ、参加者は恩師や友人と久しぶりの再会を楽しんだ。



前沢浩子学長がラウンドテーブルディスカッション 「学術人事におけるジェンダー平等の推進」に参加



11月22日、日本とドイツの大学およびドイツの大学が加盟する機関の代表者が一堂に会し、学術職におけるジェンダー平等の重要課題について議論するイベントに、前沢浩子学長がパネリストとして参加した。

このイベントはドイツ大学学長会議(HRK)会長、ヴァルター・ローゼンタール教授出席のもと、獨協大学、ドイツ大学学長会議(HRK)、ドイツ 科学・イノベーション フォーラム 東京(DWIH東京)が主催、ドイツ研究振興協会(DFG)、ドイツ学術交流会(DAAD)東京事務所の共催で開かれたもの。「学術人事におけるジェンダー平等の推進」というテーマで、研究・教育における包括性や多様性、研究・イノベーションの推進について、意見交換がなされた。

前沢学長は、獨協大学の初の女性学長として、獨協大学では女性の活躍促進のためどのような取り組みをしているかを話した。



第35回獨協インターナショナル・フォーラム開催 「韓国学の新地平 —歴史をひもとき、現代世界を読みなおす—」



12月13日、14日の両日、第35回獨協インターナショナル・フォーラムが開催された。本フォーラムでは、国内外の韓国学、特に歴史の専門家が、歴史的な事象が現代に及ぼす諸問題を議論した。情報、都市、東アジア、境界、記憶、移民、ディアスポラ、信仰、感情など韓国をめぐる研究視角が現代世界の知として果たす役割について考える場となった。

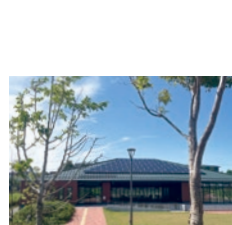
コーディネーターは小宮秀陵国際教養学部准教授が務め、対面・オンライン合わせて、延べ354名の参加があった。



獨協大学コミュニティスクエア が「令和6年度 彩の国みどりの 優秀プラン賞」を受賞



埼玉県では、ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例に基づき届出が行われた緑化計画の中から、特に優良な緑化計画を毎年表彰。この度、獨協大学から提出された「大学施設(獨協大学コミュニティスクエア)」に係る緑化計画が、緑地設計や維持管理状況などが他の模範となるものであると認められ、「令和6年度 彩の国みどりの優秀プラン賞」を受賞した。



2024年度父母懇談会 (学内会場)開催



10月19日、父母の会主催による父母懇談会が天野貞祐記念館大講堂で開催され、来校とオンライン合わせて431名の父母および保証人が参加した。

父母懇談会は「全体会」「学部学科別懇談会」「懇親会」の3部構成。希望者には学生による施設見学ツアー、職員による個別相談が実施された。来場者からは「学長の話で、大学の理念と歴史を再確認できた」「内定取得学生による就職活動体験談がとても興味深かった」という感想が寄せられた。短い時間であったが、父母および保証人同士、また教職員との貴重な交流の場となった。



本学の先生方が
執筆された新刊情報をお届け！

RECOMMEND BOOKS

2025 WINTER

※価格は税別

03

會田 康範(経済学科非常勤講師)共編著
『「歴史的思考」へのいざない
人びとをつくる歴史の営み』
戎光祥出版 2024年8月 3000円
高校・大学の歴史教育で求められる「歴史的思考力」とはなにか?学習指導要領にも頻出する歴史的思考力の育成のために、教員が知っておくべき教育理論について実践を踏まえ解説。現職の教員に加え、教員を目指す学生に読んでいただきたい書籍です。



04

秋本 弘章(経済学科教授)分担執筆
『世界のしくみが楽しくわかる13歳からの世界地図』
幻冬舎 2024年9月 1700円
80の国と地域を写真、地図、データを用いて解説。日本との関係性を記載しているのでニュースのなぜ?がまるごとわかります。大人も一緒に楽しめる1冊です。



05

會田 康範(経済学科非常勤講師)共編著
『文化財が語る 日本の歴史 社会・文化篇』
雄山閣 2024年9月 3000円
原始・古代・中世・近世、近現代と時代を通して文化財を紹介。土器・仏像・経典・梵鐘・荘園遺跡・説話・古道・浮世絵・墓石・金箔・ハンセン病療養所の機関銃・天然記念物としての植物・書簡・ホーロー看板などを取り上げ、日本の社会・文化史の実像にせまります。



06

松本 健太郎(英語学科教授)分担執筆
『Entertainment Media and Communication』
De Gruyter Mouton 2024年10月 220 €
本書はエンターテインメント・メディアとコミュニケーションに関する学問を幅広く、パランスの取れた視点から紹介。寄稿者たちは、その基礎を探究し、重要な概念と理論を無数のレンズを通して定義した上で、デジタルメディアに関するユニークな考察を論じます。



07

四元 康祐(言語文化学科非常勤講師)翻訳
『ミャンマー 証言詩集 1988-2021』
いくら新芽を摘んでも春は止まらない』
港の人 2024年10月 2200円
ミャンマー軍事政権下での詩と散文。詩人たちは怒りと哀しみ、異議申し立てを訴える。文字に記された言葉は力強く、ミャンマーの詩人たちの魂は燃え続けています。ミャンマーを代表するコウコウテツ、ケーザウィン、エーポーカインほか32名の詩人の詩28篇とエッセイ12篇を収録。



08

野崎 亜紀子(総合政策学科教授)著
『〈つながり〉のリベラリズム 一規範的関係の理論』
勁草書房 2024年10月 5000円
他者に依存するニーズを必ず持つ個人をリベラリズムは捉えられるのか?ケア論を中心に批判が高まっている。本書は、言語化されないままに近代法体系に組み込まれてきた〈向き合ってしまった者〉との関係と、そのなかにある個人を、法の周縁から救い出す。個人を尊重する「自由な社会」の可能性を考える、旧く新しい構想。



09

一之瀬 高博(国際関係法学科教授)共編著、鈴木 淳一(国際関係法学科教授)共著
『国際司法裁判所 判決と意見・第六巻(2017-22年)』
国際書院 2024年11月 9000円
前巻第5巻刊行から6年の歳月をかけて、ここに第6巻が刊行されました。国際司法裁判所の判決および勧告的意見は戦後国際法学の理論的・実践的に熟成されてきており、国際法学を学ぶ上で不可欠の存在になってきています。



10

木村 佐千子(ドイツ語学科教授)日本語解説
『J.S.バッハ:フーガの技法 BWV1080』
BIS 2024年11月 5000円
鈴木雅明が「フーガの技法」を録音。J.S.バッハが晩年、作曲に取り組んだ「フーガの技法」。バッハは単一の主題から対位法技法を用いてどれほど多様な作品が作り出せるかを追求。しかし1750年にバッハが亡くなったため、未完となった謎多き作品です。木村佐千子教授が日本語版解説書を執筆しています。



本学教職員(非常勤講師含む)が執筆した単著・共著・分担執筆・監修・翻訳書などの新刊がありましたら、総合企画課までご連絡ください。

2025年度 学費について

NEWS
ご案内

■口座振替の方

入学年度		2019年度以降	2018年度以降
春学期	口座振替日	4月14日	4月10日
	手続締切※	3月20日	—
秋学期	口座振替日	9月12日	9月10日
	手続締切※	8月20日	—

口座振替日が金融機関休業日の場合は、翌営業日が振替日となります。

学費「Web口座振替受付サービス」のご案内

本学では原則、口座振替での学費納入となっています。「Web口座振替受付サービス」へご登録ください。すでに口座振替をご利用の方で、振替口座の変更を希望する場合も、改めて手続きをお願いいたします。

Web口座振替受付サービスの概要

- ★Web画面によるオンライン手続(銀行届出印不要)
- ★口座振替日:春学期4月14日、秋学期9月12日
- ★3月20日までにお手続きいただければ2025年度春学期の学費から口座振替となります。
- ★手数料は大学負担となります。



(Web口座振替受付)

■銀行振込の方

	春学期	秋学期
振込用紙の発送	4月1日	9月1日
納入期限	4月末日	9月末日

訃報

生前のご功績を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。

岡田 博(おかだ・ひろし)
名誉教授

2024年9月23日死去、91歳
1983年 教授
2000年 経済学科長
2003年 名誉教授

鈴木 道彦(すずき・みちひこ)
名誉教授

2024年11月11日死去、95歳
1989年 教授
1991年 フランス語学科長
1994年 図書館長
2000年 名誉教授

2024年度学友会四本部合同交代式開催

11月27日、学生センター1階雄飛ホールにて、2024年度学友会四本部合同交代式が執り行われた。この式典は2024年12月より新たに学友会各本部の正副委員長となる学生達に、学友会会長(学長)が役職を委嘱する節目の行事。当日は前沢浩子学友会会長をはじめとする大学教職員や学友会新役員の他、来賓として一般社団法人獨協大学同窓会から菅沼豊会長代行が出席した。交代式では、学友会新役員に対し、前沢学長から委嘱状と激励の言葉が送られた。第61期学友会委員長の林遼果さん(独2年)は、「学友会活動を通じて、多くの学生がつながり合える場を作れるよう尽力してまいります」と意気込みを語った。

学友会 新役員一覧

任期:2024年12月1日~2025年11月30日

第61期学友会



委員長 副委員長

第61期文化会



委員長 副委員長

第61期体育会



委員長 副委員長

第51期愛好会



委員長 副委員長

第61期監査団



団長 副団長

ぶ-ら-り-ら-い-ぶ-ら-り

Vol.113

獨協大学図書館の歴史を振り返ろう!

獨協大学は、2024年10月22日に創立60周年を迎えました。

大学の創立記念に関連して、今回は主要なトピックに注目しながら、図書館のこれまでの歩みを振り返ってみましょう。

図書室の開設

本部棟(当時)の1、2階にある小さなスペースで開設。初代学長・天野貞祐先生から寄贈された蔵書コレクション約3,000冊を含め、当初の蔵書数は25,000冊ほどでした。

サービスの電算化

パソコンの導入など、学内における情報インフラが整備される中で、図書館では貸出・返却処理を電算化し、情報検索システムを導入。利便性が向上し、利用者が増えました。

図書館学生サポーター「BiVS(ビボス)」の誕生

学生の視点に基づいた魅力あるサービスを行うために2015年から始動。職員と協働しながら、より良い図書館づくりを目指して活動しており、2025年度には結成10周年を迎えます!



図書館の開館

独立棟として開館。館内には、共同研究室やレコード鑑賞室のほか、収容人数1,100名の講堂もありました。この講堂で卒業式が執り行われたことも。



1968年 旧図書館の様子(開館記念冊子より)

新図書館の開館

大学創立40周年を記念して建設された「天野貞祐記念館」内に開館。免費構造、自動書庫、ラーニング・commonsなど、先進的な設備を有する大学図書館へとリニューアルしました。

非来館型サービスの拡充

電子書籍、電子ジャーナル、データベース、オンラインレファレンスの提供など、非来館型サービスを拡充。大学の外からも図書館サービスが利用できるように。蔵書数は100万冊を突破!



大学の学び・研究を支える「知の拠点」として、進化を続けていきます。これからも、図書館をたくさん利用してくださいね♪

COVER STORY



[表紙の人]

法学部 法律学科2年

1月号の表紙を飾ってくれたのは、法学部法律学科の[]さん。1年生で経験した刑法の授業と短期春季協定校留学がきっかけで「法律と英語の両立」をテーマに行動してきた春日さん。卒業までにTOEIC®700点以上の取得を目指すため、夏休みにはカナダのレジャイナ大学へ1か月の留学を経験。3年次から始まるゼミでは刑法を研究することが決まる等、目標に向けて着実に行動されています。

また、「人のためになることがしたい」という軸のもと課外活動にも精力的に取り組んでいます。自身が高校3年生の時にオープンキャンパスで出会った学生スタッフに憧れ、今は入試の学生スタッフとしての活動や、父母懇談会でのキャンパスツアーにも自ら立候補して大学の魅力を伝える活動に取り組んでいます。「人にものを伝えることの難しさと、喜んでくれる嬉しさを学んだ」と笑顔で語ってくれた[]さん。今後のさらなる飛躍が期待されます。

獨協大学同窓会が

ピクニックテーブルを寄贈

10月22日、獨協大学同窓会より、創立60周年記念として「ピクニックテーブル」6台を寄贈いただきました。



獨協大学学生サポート寄付金募集協力をお願い

本事業は、「よりよい社会の構築に貢献する人材」を育成すべく、国際化推進、地域連携・地域貢献、学友会活動、自律学習など、学生の活動全般を広く永続的に支援することを主眼としています。皆さまの協力をよろしくお願いいたします。

※クレジットカード決済、コンビニエンスストア決済、インターネットバンキング(Pay-easy)、銀行振込等をご利用いただけます。詳しくは、本学ホームページをご覧ください。

<https://www.dokkyo.ac.jp/donation/>



※法人の方は直接お問合せください。 所管:獨協大学総合企画課
TEL.048-946-1635



第10回伝右川再生会議*を開催(11月16日)

第10回目となる今回は、大野元裕埼玉県知事をお招きし、「埼玉県における川との共生」をテーマとして基調講演をいただいた。後半は、米山昌幸教授による伝右川再生会議の10年間のあゆみに続き、国際環境経済学科の原田奈穂(3年)さん、菜花千里(4年)さん、島田隼人(4年)さんによる伝右川再生に向けた獨協大生の活動が報告された。学生活動について県知事から高い評価をいただき、約300名の参加者とともに、今後も行政と連携した取り組みを進める意義を再確認することができた。



講演・討論会「第10回 フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」*を開催(11月13日)

今年は、福島県企画調整部長の五月女有良(そうとめありよし)氏による基調講演に続き、福島県大学生事業および復興知事事業に参加する石田新子(営3年)さん、丹野悠太(環4年)さん、原田奈穂(環3年)さん、坂口諒(環4年)さん、徳田夏実(環3年)さん、小池美月(済3年)さん、齋藤史空(英4年)さん、日野原楓(環4年)さんの8名より活動報告があった。学生からは委託事業・補助事業が終了したのちも、親戚のところに行くように地域に入って活動していることが披露され、五月女氏からは本学でこれまで延べ300名を超える学生が大学生事業で地域で活動しており、事業終了後もしっかりと関係が築けていることに高い評価をいただいた。



*いずれも国際環境経済学科・環境共生研究所共催で毎年開催している。今年は大学創立60周年記念事業、および国際環境経済学科10周年記念事業として開催した。

編集 総合企画課(中央棟2階) TEL.048-946-1635 kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者 大久保 賢斗(営3年) 岡田 陽依(英4年) 片柳 月奈(営3年)
[五十音順] 金田 夏実(律3年) 川合くるみ(営1年) 黒木 健登(律3年)
齋藤 史空(英4年) 佐々木那智(仏1年) 島田 瑞里香(済3年)
庄司 光希(総4年) 土田 優衣(営3年) 土屋 日花莉(律3年)
原 友里恵(英4年) 柳澤 真理子(営3年) 渡邊 帆風(営3年)

略称表記(学科) 独…ドイツ語/英…英語/仏…フランス語/交…交流文化/言…言語文化/
済…経済/営…経営/環…国際環境経済/律…法律/関…国際関係法/総…総合政策



<https://www.dokkyo.ac.jp/>

次回は5月号の予定です